

F-REIの最近の動き (令和7年8月、9月)

福島国際研究教育機構

Fukushima Institute for Research, Education and Innovation (F-REI)

F-REIのWebサイトに掲載されている「F-REIの最近の動き（令和7年4月～）」から令和7年8月分、9月分を浪江町役場で抜粋しております。詳細はF-REIのWebサイトをご覧ください。
(<http://www.f-rei.go.jp/>)

令和7年8月1日（金） 分野長・副分野長（原子力災害に関するデータや 知見の集積・発信分野）の決定

8月1日、原子力災害に関するデータや知見の集積・発信分野において、分野長及び副分野長各1名に就任いただきました。これにより、分野長5名、副分野長9名の構成となりました。

<p>原子力災害に関する データや知見の 集積・発信分野</p>		<p>【分野長】今村 文彦（いまむら ふみひこ） 東北大学 副学長</p>
		<p>【副分野長】出口 敦（でぐち あつし） 東京大学 執行役・副学長</p>

令和7年8月1日（金） 研究体験講座を開催

8月1日、福島県環境創造センターにて、福島県、日本原子力研究開発機構（JAEA）、国立環境研究所（NIES）及び福島国際研究教育機構（F-REI）の4機関連携による研究体験講座が開催されました。

今回は福島高等学校のスーパーサイエンス部1年生9名がF-REIの「放射線を探せ-ノーベル賞の発明を100均で作ろう-」コースに参加しました。ここでは、原子力災害に関するデータや知見の集積・発信分野 地域環境共創ユニットの青野辰雄ユニットサブリーダーが講師を務め、「放射線計測器による放射線の測定により、その特徴を理解する実験」、「身近な材料による霧箱の作成及び霧箱を用いた放射線の観察」を行いました。

参加した高校生からは、「放射線を可視化する原理やしくみについて、皆で考えながら霧箱を作り放射線を観測できたため理解が深まった。」などの感想を頂きました。



令和7年8月3日（日） 出張版サイエンスラボを開催

8月3日、出張版サイエンスラボを福島県ハイテクプラザにて開催された「あつまれっ！ハイテクプラザ2025」への出展ブースにて、出張版のサイエンスラボを開催しました。

今回のサイエンスラボは、電子工作＆プログラミング体験を軸に実施し、「複数の電子部品を組み合わせた電子回路の組み、LEDを光らせる工程」と「プログラムによりLEDの光らせ方を変える工程」の2つを体験してもらいました。

ブースに来た子どもたちは、普段触れる機会のない電子部品やプログラムに興味を持った様子で、どのように繋げばLEDが光るのか、プログラムを書き換えればどのように変化するのか、色々と試していました。



令和7年8月4日（月） 出前授業（磐城高校）を開催

8月4日、磐城高校の1年生～3年生の希望者約20名を対象として、（公財）福島イノベーション・コスト構想推進機構と連携した出前授業を開催しました。F-REIのパワーソフトロボティクスユニットの鈴森康一ユニットリーダーが講師を務め、「パワーソフトロボティクス」の講演題目のもと、授業を行いました。

授業では、ソフトロボットについて「いいかげんなロボット」と表し、柔らかく融通が利き、生体システムの価値観に合うものであることを説明し、人工筋肉や内視鏡等の医療への有用性について、動画や実物を見せながら紹介をしました。

参加した学生たちにとって、最先端の技術に触れる機会となるとともに、ロボット分野への興味関心を持つ機会となった様子でした。



令和7年8月16日（土）～17日（日） 国際STEAMワークショップ in Fukushima 2025で 山崎理事長が基調講演を実施

8月16日～17日、原子力損害賠償・廃炉等支援機構（NDF）の主催で、F-REIが後援している「国際STEAMワークショップ in Fukushima 2025」が双葉産業交流センター（F-BICC）で開催されました。

F-REIの山崎理事長が国内共同議長を務め、基調講演を行ったほか、F-REIの原子力災害に関するデータや知見の集積・発信分野の高村昇ユニットリーダーが特別講演を行いました。また、農林水産業分野の二瓶直登ユニットリーダー、放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用分野の武田伸一郎主任研究員がメンターとして講演及び参加者のサポートをしました。

福島県内外、及び海外から参加された計62名の学生たちは、世界で活躍する研究者の講演やグループディスカッションをとおして、自身の今後のキャリア形成について、考える機会となつたようでした。



令和7年8月18日（月） 国際アドバイザーとの意見交換を実施

8月18日、国際アドバイザーのフィオナ・レイモン博士がF-REIを訪問し、役員等と意見交換を行いました。

F-REI側からレイモン博士に対し、直近のF-REIの活動状況や施設の整備、研究開発に関する活動を説明し、質疑応答を通じて、理解を深めていただきました。その後F-REIを国際的な研究拠点にするための方途等について活発な意見交換が行われました。

また、意見交換後に、レイモン博士に地域の現状の理解をより深めていただくため、双葉町減容化施設の視察を行いました。



令和7年8月19日（火）～22日（金） 2025カーカム会議に参加

8月19日～22日に、土壤物理学の国際会議「2025カーカム会議」がJヴィレッジ（楢葉・広野町）で開催されました。本会議は、学際的な議論と新たな研究の推進を目的に、4年に1度開催されています。

F-REIからは、農林水産業分野の藤井一至ユニットリーダーが参加し、ポスター発表や飯舘村での視察現場において土壤に関する説明を行いました。また、19日と22日には会場でブースを出展し、来場者に対してF-REIの取組や研究内容を紹介しました。さらに、初日のウェルカムパーティでは、山崎理事長による開催に向けたメッセージ動画も上映され、F-REIの国際的な発信力をアピールしました。



令和7年8月25日（月）～27日（水） 令和7年度サマースクールを開催

8月25日～27日の3日間、福島大学・福島医大・会津大学・福島高専の学生5名を対象に、令和7年度サマースクールを福島ロボットテストフィールド（RTF）等を会場として開催しました。

1日目は廃炉資料館、RTFの見学、RTF関連企業である（株）リビングロボット 代表取締役社長 川内康裕氏による講話を行いました。2日目には、遠隔操作研究ユニットの大西ユニットリーダーによるリアルハプティクス技術を導入した遠隔操作ロボットに関する講義・実験、山崎理事長による講演、3日目には、参加学生による成果発表会を行いました。

参加した学生からは、「自身の行っている研究に深く関わる内容で、大変勉強になった。」、「研究者の新しい考え方を知ることが出来る貴重な機会だった。」等の意見をいただきました。



令和7年8月29日（金） 国立研究開発法人理化学研究所環境資源科学研究 センターと連携・協力に関する協定を締結

8月29日、国立研究開発法人理化学研究所環境資源科学研究センター（CSRS）とF-REIは、土壤生態系の理解に基づく持続可能型農業の基盤構築に向けた研究推進のための、連携・協力に関する協定を締結しました。

本協定に基づく共同研究等の実施により、CSRSの基礎科学・先端技術とF-REIのフィールド・社会実装力を掛け合わせるとともに、福島での実証を通じて、気候変動対応・低化学肥料・脱炭素という国際的課題の解決に繋げます。

＜具体的な連携事項＞

- （1）共同研究の推進
- （2）研究施設、設備等の相互利用
- （3）研究者の学術交流及び人材育成
- （4）情報発信の相互支援及び共同実施
- （5）その他、本協定の目的遂行上必要な事項

令和7年9月13日（土） F-REIサイエンスラボ「秋のわくわく科学実験」を開催

9月13日に、「エフレイサイエンスラボー秋のわくわく科学実験ー」をいわき市（会場：福島工業高等専門学校（福島高専））で開催しました。

今回は、県内外（※）の小学4～6年生の親子67組（134名）からご応募いただき、抽選で選ばれた30組（60名）にご参加いただきました。

当日は、福島高専の学生さんにもご協力いただき、①霧箱作成と放射線の観察実験、②オリジナルLEDを作る電気工作実験を行いました。参加者の皆さんにとって、科学に関する知識、関心を深める機会となった様子でした。

※県外：神奈川県横浜市、茨城県水戸市

県内：いわき市、南相馬市、須賀川市、広野町、大熊町



令和7年9月16日（火） F-REI・CCRI国際ワークショップを開催

9月16日、F-REIとCCRI（放射線諮問委員会）の合同ワークショップを、福島県南相馬市で開催しました。

本ワークショップでは、CCRI委員と国内専門家が集結し、放射線の医学応用や計量標準について国際的な視点から議論を行い、F-REIからは山崎理事長、絹谷先生（放射線科学・創薬医療分野）が登壇しました。

当日は、現地・オンライン合わせて120名以上の方にご参加いただき、大変盛況となりました。





F-REI

福島國際研究教育機構